



環境報告書 2020
Environmental Report 2020



国立大学法人
旭川医科大学
National University Corporation
Asahikawa Medical University

II ごあいさつ

旭川医科大学は、1973(昭和48)年の建学以来40年余、「地域医療に根ざした医療および福祉の向上」の建学理念の下、広く北海道における医学の教育・研究並びに診療の拠点として、重要な役割を担ってきました。特に、地域間の医療格差是正を目指して、1999(平成11)年、全国に先駆けて設けられた遠隔医療センターは、現在までに日本国内のほか、アジアやアメリカなど国外へも拡大し、59の国内外の医療機関とネットワークを形成してきました。

これら最先端ICT技術が融合した施設とともに、本学が誇るかけがえのない「宝」といえるのが、逝か大雪山連峰の山並みを望む豊かな自然環境です。寒暖差60°Cを超える厳しい気候風土が、四季折々を通じてドラマチックな風景を演出しています。とはいえ、加速する地球温暖化の影響から、私たちの街もまた逃れることはできません。

旭川は、1902(明治35)年1月に、正式の気象観測所の記録としては日本の最低温度となる、-41°Cを記録した地としても広く知られていますが、近年の最低気温は-25°C前後となっていて、平均してここ100年で10°Cほど上昇していると考えられています。気温が1°C上がると、緯度が100km下がったのと同じと言われてしますので、緯度が1,000km下がったこととなります。

地球温暖化の進行により、「これまで経験したことのないような」集中豪雨、「記録的な」大雪・猛暑等の異常気象の発生が増加しています。長期に及ぶ気候変動が地殻変動の原因となっている可能性があるとも言われています。

環境の急激な変化をもたらしているのは、私たち人間の所業です。振り返ってみれば、この地球の歴史は、人間が引き起こした過ちによって、しばしば大きな代償を支払わされてきた歩みでもあります。2011年3月に発生し

た、「東日本大震災」の大惨事は、人間の傲慢さと、それに対する代償の怖さを見せつけています。

環境問題を地球規模で考え、自然と共生していくには、どうすればいいのか。地球環境をこれ以上破壊しないよう、省エネ、節水、ごみの減量・再資源化等資源の有効活用等に努めることが大切です。

次世代へと命をつなぐ、この「かけがえのない地球環境を守っていくこと」は、命と向き合う医療現場に身を置く私たちにとっても、極めて重要な使命です。本学のミッションを果たすべく、教育・研究・診療・社会貢献の分野で教職員が一丸となって、新たなチャレンジを続けていくとともに、地球環境の保全を重要な課題と位置づけ、私たち大学人が、自らの責任を自覚し、日々の具体的行動へとつなげていくことを、ここに宣言いたします。



学長(第7代)

吉田 晃敏

平成19年7月1日～

環境配慮の方針

■ 基本理念

旭川医科大学は、自然豊かな北海道の北部・東部の中心にあり、その教育・研究及び診療などに伴う全ての活動において、人と自然が調和した社会環境の保全・改善のために配慮が必要と考え常に環境に配慮した取り組みを目指します。

■ 基本方針

旭川医科大学は、基本理念を実現するために以下のことについて実施します。

1. 本学における教育、研究及び診療において、人と自然が調和した社会の環境を保全・改善することに努めます。
2. 地球環境の保全・改善のため、地域社会との連携を強め環境問題の解決に努めます。
3. 環境関連法規、条例及び協定を遵守すると共に環境に与える負荷の低減に努めます。
4. この環境方針を達成するために、職員及び学生などと協力して環境に配慮した取り組みの実施体制を確立するとともに、環境目標を設定し、広く公開します。

Contents

ごあいさつ	01
環境配慮の方針	02
大学の概要／組織機構図	03
大学位置図	04
大学配置図	05
本報告書の対象範囲	06
環境配慮の計画／環境マネジメント体制	07
総エネルギー消費量及びその低減対策	08

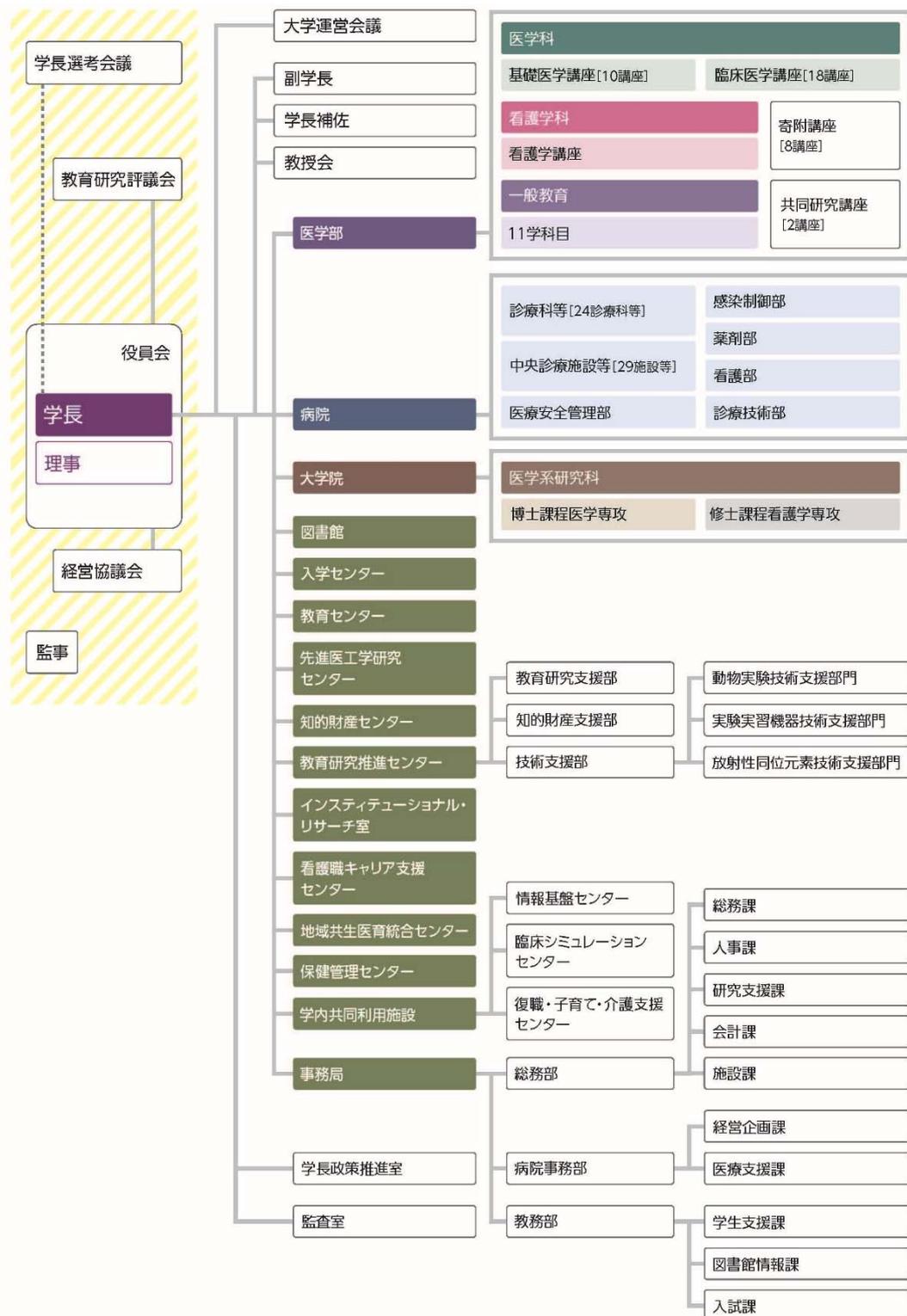
大学の概要

大学名 国立大学法人 旭川医科大学
所在地 〒078-8510
 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
設立 1973年（昭和48年）
学長 吉田 晃敏

※2020年（令和2年）5月1日現在

区 分	人数
役 員	7
教 職 員	1, 473
医 学 部 生	949
大 学 院 生	122
計	2, 551

組織機構図



大学位置図

位置図



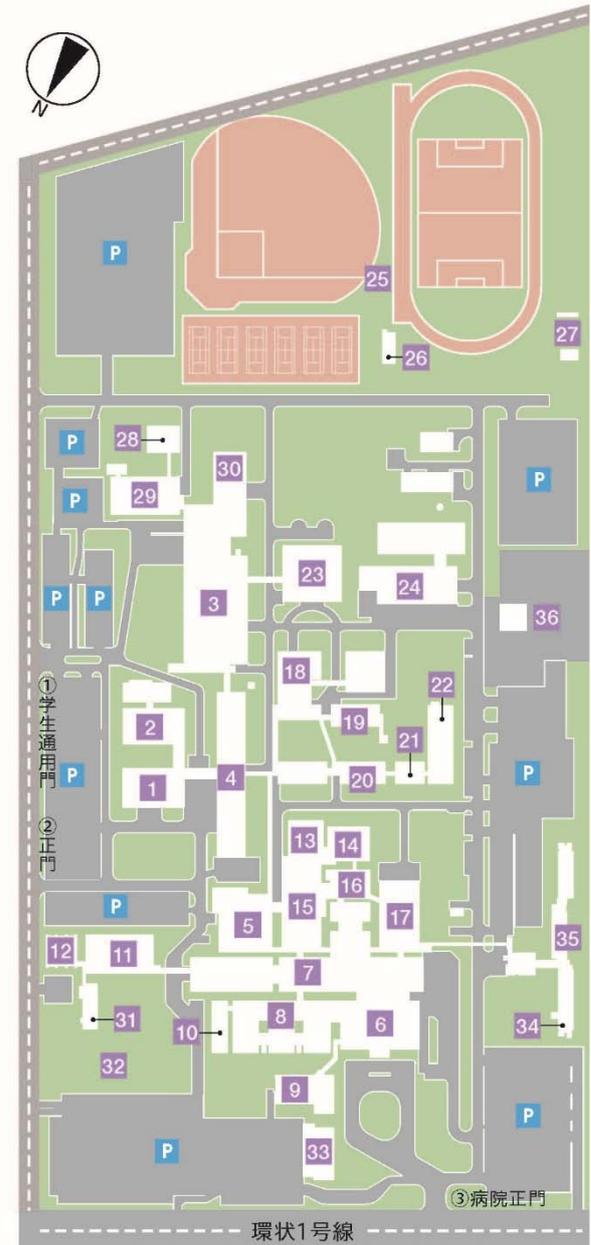
交通案内

JR	
札幌駅→旭川駅	所要時間/約1時間25分
新千歳空港駅→札幌駅→旭川駅	所要時間/約2時間20分
旭川電気軌道バス [旭川駅前(緑橋通り)27番のりばから乗車]	
71番 医大病院前行(緑東大橋経由)	所要時間/約35分
80・81番 医大病院前行(神楽経由)	所要時間/約40分
旭川空港からのバス [旭川電気軌道・道北バス・ふらのバス]	
空港乗車→旭川医大前下車	所要時間/約30分
タクシー	
旭川駅→旭川医大前	所要時間/約15分
旭川空港→旭川医大前	所要時間/約20分

大学配置図

建物配置図

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 本部管理棟 | 19 放射性同位元素研究施設 |
| 2 図書館 | 20 実験実習機器センター |
| 3 講義実習棟 | 21 臨床研究棟 |
| 4 総合研究棟 | 22 共用研究棟 |
| 5 臨床講義棟 | 23 看護学科棟 |
| 6 病院 | 24 中央機械室 |
| 7 病棟 | 25 屋外運動場 |
| 8 外来診療棟 | 26 体育管理施設 |
| 9 食堂棟 | 27 弓道場 |
| 10 遠隔医療センター | 28 武道場 |
| 11 共通棟(A) | 29 体育館 |
| 12 共通棟(B) | 30 福利厚生施設 |
| 13 MRI-CT装置棟 | 31 保育園 |
| 14 高エネルギー施設 | 32 大学の森 |
| 15 中央診療棟A | 33 緑が丘テラス |
| 16 特殊診療棟 | 34 ファミリーハウス |
| 17 中央診療棟B | 35 看護師宿舎 |
| 18 動物実験施設 | 36 ドクターヘリ ヘリポート |



←ツインハーブ橋

本報告書の対象範囲

対象組織

旭川医科大学の全組織
(学部、大学院、病院、学内共同利用施設及び事務局など)

対象期間

令和元年度 (2019年4月～2020年3月)

対象団地

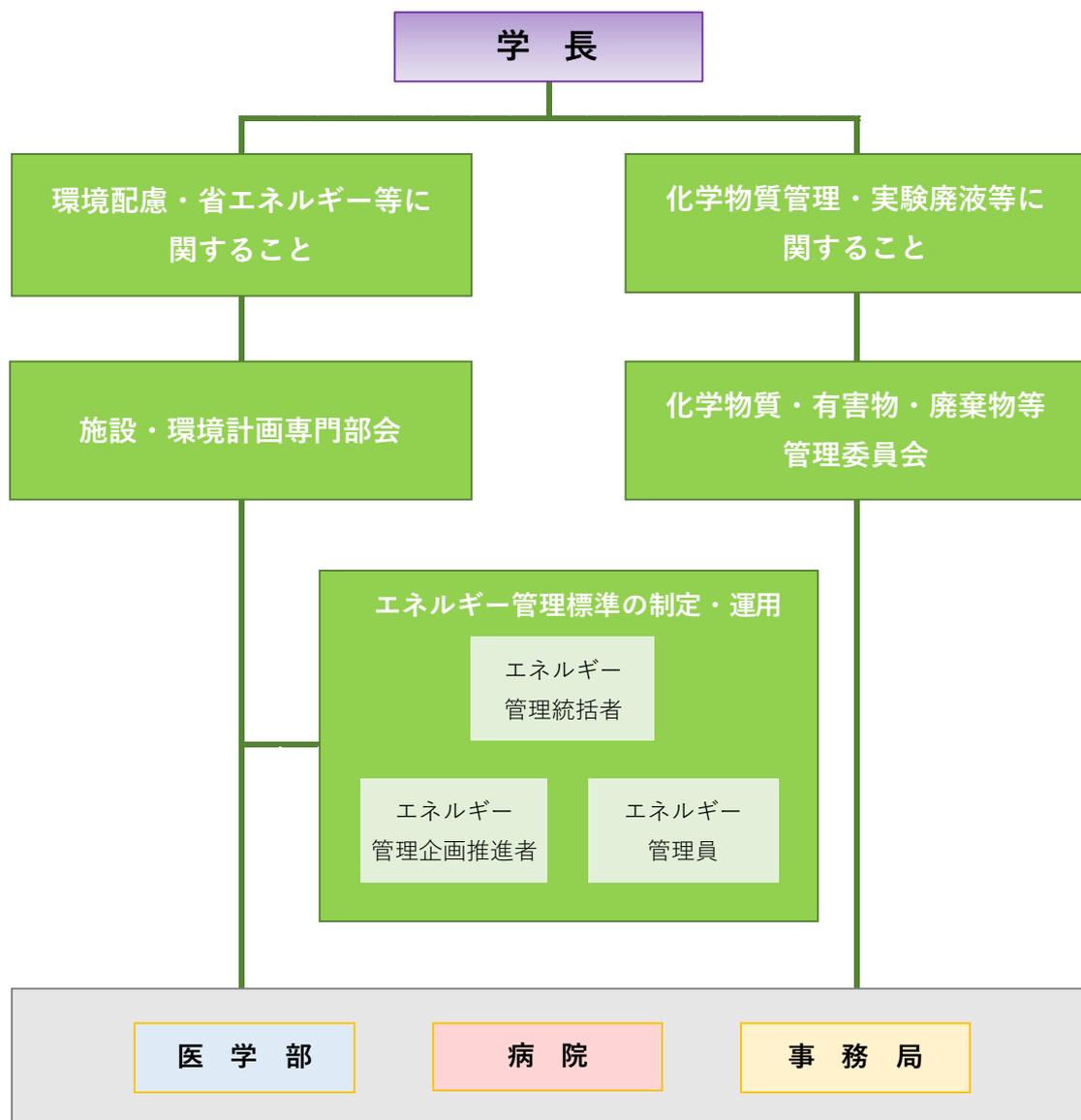
緑が丘東団地 (主要団地)
※緑が丘団地は主に職員宿舎であることから除外している。

建物延べ床面積 122,850㎡ (職員宿舎を除く)

環境配慮の計画

重点課題	目標	主な取組	自己評価
地球温暖化	温室効果ガス(CO2)排出量の前年度比1%削減	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの省エネ・節電への呼び掛け エネルギー使用量・料金の見える化 電力使用状況のリアルタイムで表示 	△
	建築及び管理等における配慮	<ul style="list-style-type: none"> 動物実験施設改修工事では環境に配慮した設計及び機器等の選定 令和2年度E S C O事業導入に向けた準備 空調の運転時間設定 	◎
	その他事業活動に伴う温室効果ガス排出の抑制への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 環境物品等の優先的な調達 省エネ機器・設備の購入 再生品及びリサイクル可能な製品の購入 	◎
資源循環	廃棄物の排出・適正管理	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の分別徹底による排出量削減 古紙・PETボトル回収の拡大とリサイクルへの促進 	○

環境マネジメント体制



総エネルギー消費量及びその低減対策

■総エネルギー使用量

本学における総エネルギー消費量は、電力、都市ガスの購入量を熱量（GJ）に換算して算出しています。過去5年間の推移では大きな変化はなく、430千GJ前後で推移しています。病院の電気及びガス使用量は全学の約80%を占めています。しかし、その使用設備機器は経年劣化により効率がダウンしていること、さらに大学事業が徐々に発展し拡大したことによるエネルギー使用量増加に対して、既存設備では効率の良い運転ができていない状況です。これらの要因により学内で行っているエネルギー節減は実質的には相殺され、省エネルギー効果をなかなか出すことが難しい状況であり、エネルギー削減には抜本的な対策が必要です。

■省エネルギーに関する取り組み

病院では、2015年よりエネルギー節減を目的とした省エネフロアマネージャー制を導入しています。省エネフロアマネージャーはチェックシートをもとに電気、ガス、上下水道の効率的な使い方を推進することが目的の一つです。また、本学ウェブサイトでは2015年9月よりエネルギー使用状況の見える化を実施しています。全学の電力使用量をリアルタイムで表示しており、さらに学内限定ではありますが電力使用量、電気料金、ガス使用量、ガス料金、上下水道使用量、上下水道料金を月毎と年度の累計を前年度と比較することができるようにしています。

学部では空調の運転時間を設定し、設定時間を過ぎると自動停止する機能「切りタイマー設定」を行い、「電源の切り忘れ」や「空調不要な時間帯の稼働」などを防ぐ取り組みも始めました。

■2019年度の主な取り組み

○管理一体型E S C O事業の導入

他大学で実績のある民間企業のノウハウ、資金を活かした省エネルギー事業（管理一体型E S C O事業）の導入を計画するため、調査を実施してきました。2019年度に公募を行い優先交渉権者が決定し、2021年4月からサービス開始が予定されています。

E S C O事業の導入により、エネルギー利用状況に合わせた容量及び機能を持った最新の省エネ設備機器が導入されるほか、運転管理やメンテナンスなどのエネルギーマネジメントも実施されるため、大幅な省エネルギーと温室効果ガス削減への効果が期待されています。

■環境データの推移

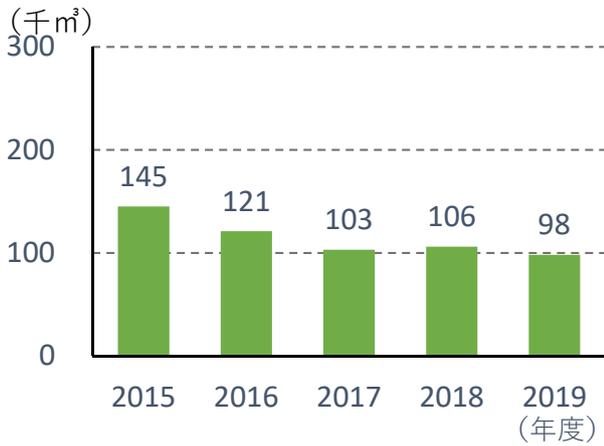


※エネルギー消費量の熱換算係数は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（省エネ法）に従っています。

温室効果ガス排出量



水資源使用量



下水道使用量



一般廃棄物排出量



産業廃棄物排出量



■ グリーン購入の促進

本学では、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）の規程に基づき、毎年度その調達実施に向けての方針を決定し、環境負荷低減に資する環境物品等の調達に努めています。今後とも基本方針を遵守し、環境負荷等の少ない物品等の調達に努めていきます。2019年度における特定調達物品の調達率は108品目のうち106品目において100%になっています。

■化学物質の適正管理と排出量

適正管理

本学では「旭川医科大学化学物質安全管理規定」に基づいて適正な使用及び管理を行うこととしています。PRTR法（化学物質排出把握管理促進法）に基づく対象化学物質について、2019年度に取扱量が1 t以上となった特定第一種指定化学物質（キシレン）について届出を行いました。

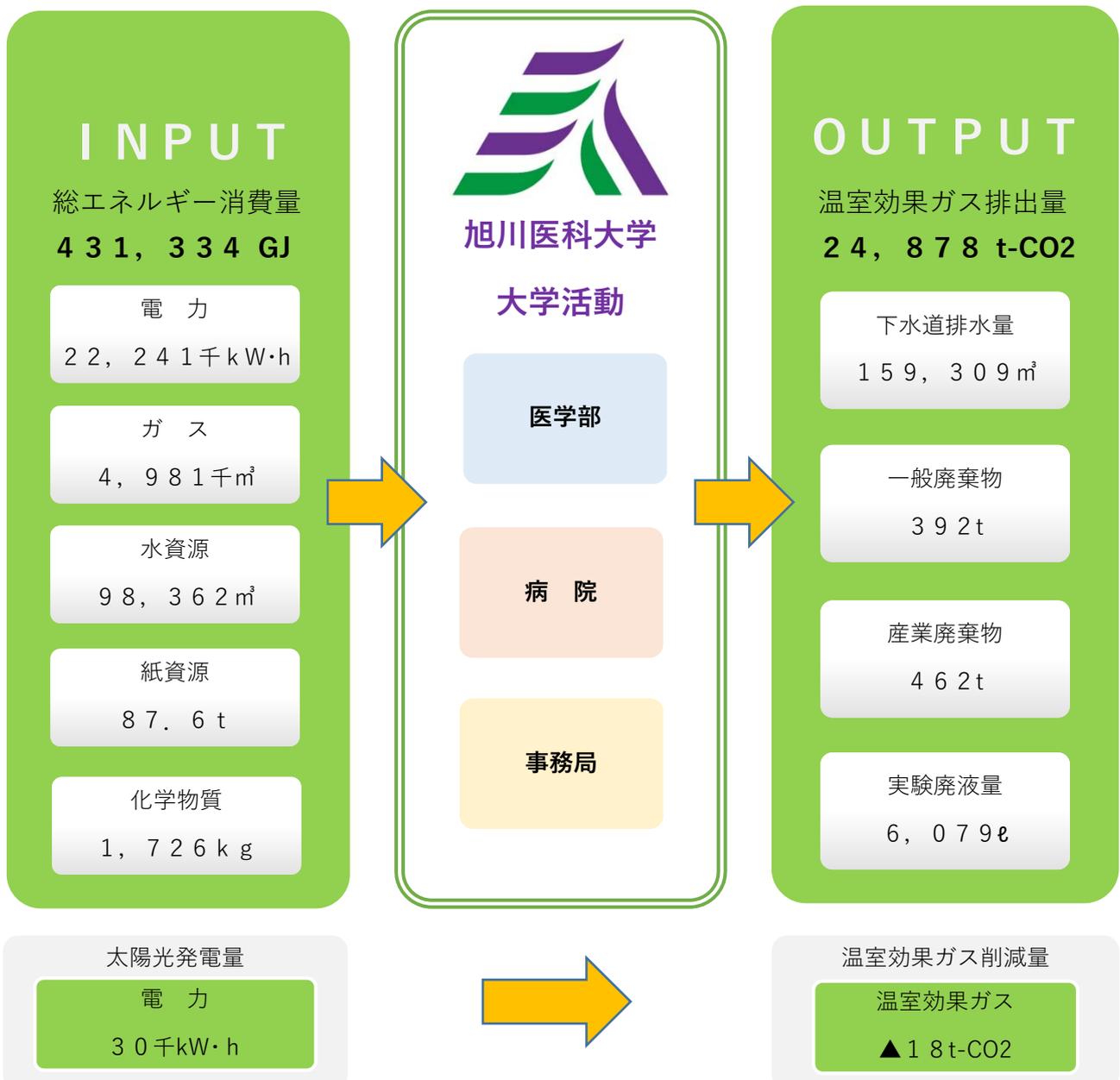
廃液処理

実験廃液は各使用部署で適正に管理保管され、年2回学内で回収し、専門業者へ委託し処理を行っています。2019年度は6,079 lを処理をしました。

排水管理

学内の排水は下水道法の定めにより水質分析を行い旭川市へ報告を行っています。

■マテリアルバランス（2019年度）





国立大学法人
旭川医科大学

National University Corporation
Asahikawa Medical University

[編集方針] _____

この環境報告書は「環境報告ガイドライン
2018年版」、「環境報告書の記載事項等の
手引き（第3版）」を参考に作成しました。

[発行年月] _____

2020年9月（次回発行予定日2021年9月）

[編集担当] _____

旭川医科大学総務部施設課
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1-1-1
Tel 0166-68-2174
<http://www.asahikawa-med.ac.jp>

本誌は環境配慮のため冊子印刷は行わず、Webで公表します。